

大保木地区タウンミーティング開催報告

【日 時】令和4年12月12日（月）14：00～15：30 【場 所】石鎚ふれあいの里

【参加者】大保木地区連合自治会副会長など全14人 ・傍聴1人

市長、公民館長、こども健康部長、農林水産部長、市民生活部長

【次 第】1 開会 2 挨拶（大保木地区連合自治会副会長）

3 市長挨拶・事業説明（別添資料）

4 事業説明：テーマ (1)今後の診療体制 (2)山林の荒廃と鳥獣対策
(3)今後の公民館のあり方

5 まとめ・閉会

概 要

【自治会副会長挨拶】

お集まりいただき感謝する。本日は、今後の地域の発展のためによりしくお願い申し上げます。

参加者の発言要旨

市の発言要旨（及び対応）

大保木診療所の用途変更

昨年のタウンミーティングで、今後、診療所を他用途に使用できるかどうかが議題に上がった。県の上承が必要とのことだったが、その後の状況は。

現在、週に1回医師が来ており、利用者がいるため、すぐにはいかないが、今後、地域の中で別の用途で使用できるかどうかを問いたい。

診療所の存続については、地域の中でも再度検討するのが良い。一部の意見で診療所を閉じる判断をしてしまうのは危険。

県からは、一人でも受診している現状で、今後どのような用途で使用するのか具体的に確定していない中では回答できないとのこと。

地域医療が成り立つ3つの要件（住民・医者・診療施設）が整っていないながら、撤退してしまえば将来の住民にも影響する。別の方法で大保木地区の診療体制が確保できるなら、県との契約解除（用途変更）を考えられるが、住民がいる現状では継続していかなければならないという考えもある。

診療所の利便性向上

利用者の交通手段について、自身で診療所に行けない高齢者のフォローをどう考えているか。

医師を送迎するタクシーを利用者のために有効活用できないか。

医師会長や診療所委託医師も、週に1回程度の開設は必要と考えている。交通手段について、診療時間中、タクシーを利用できないか、相談したい。

【後日確認】市で利用している送迎タクシーの利用は可能だが、利用者は正規料金を支払うことと、道路の状況によってはタクシーを利用できない場合があると伺っている。

住民の多くは、バスを利用したり家族に送迎を頼むなどで、市街地の病院を受診している。地域の人々がなぜ診療所を利用しないかということをも根本的に考えてもらいたい。

また、診療所に通えない高齢者には、医師が訪問診療するなど、柔軟に対応いただきたい。

市街地の総合病院に通うのは、それぞれ主治医にかかっているためでもあると思う。

診療所は、いざという時の拠り所であり、予防接種ならわざわざ市街地の病院に行かなくても診療所でもできる。

訪問診療については、定期的に医師が訪問することが可能で、要件（患者が通院困難であるなど）を満たせば可能であり、医師と患者が相談の上行うこととなる。まずは医師送迎用タクシーの活用を考えていきたい。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
山林荒廃と鳥獣対策	
<p>豊かな水の水源である山林が荒廃している。行政、地域ができる荒廃対策はあるか。</p>	<p>国の森林環境譲与税を用いて、令和3年度から「森林経営管理制度」による森林整備を、丹原地区から順次実施している。私有林の人工林について意向調査をし、自分で管理できない場合、市で森林を預かり、ある程度の面積がまとまった箇所から、放置林の間伐などを行っている。</p>
<p>竹藪が拡張し、増えすぎて困っている。対処について教えてほしい。</p>	<p>竹藪の伐採は「森林・山村多面的機能発揮対策事業」を活用できる。市の林業振興課または地方局の森林林業課にご相談いただきたい。</p>
<p>イノシシなどの有害鳥獣が増えており、農作物の被害が出ている（主に兎之山地区）。有効な対策を提案いただきたい。</p>	<p>「有害鳥獣被害対策事業費補助金」では、防護柵等の購入費用に対し補助（税抜金額の1/2、上限5万円）が可能。 「鳥獣被害対策推進事業」は、委託先であるNPO法人西条自然学校（山本理事長）が現地を確認し、有効な対策を具体的に提案していただける。大保木地区でも活用すると良い。</p>
地域づくり、公民館のあり方	
<p>今年度から大保木地区で地域自治推進事業（地域づくり）が始まった。これからの地域住民の暮らしを支えるため、有志メンバーで集まり、地域住民へのアンケート（地域課題調査など）を行っている。 公民館についても、地域住民の娯楽、社会教育施設という従来のあり方を継続しつつ、今後は地域づくりの拠点として、情報収集、発信をし、活動を推進していきたい。</p>	<p>広報12月号では、田滝の地域づくりを紹介している。良い表情が見られるのは、良い地域をつくろうという意識がある人達が集まっているからだと思う。 現在、大保木地域づくり準備会(有志の集まり)がアンケートを集計しており、この地域で何が課題なのか、どのように暮らしを支えていくかを話し合い、行政も伴走していくので、できることからお願いしたい。</p>
その他：道路整備など	
<p>黒瀬ダム管理棟から1号公園までの周遊道路（市道）が傷んでいるので、補修をお願いしたい。</p>	<p>県が行う工事との関連を確認して、対応させていただきます。 優先順位はあるが、安全性確保のために、できるだけ対応していく。</p>
<p>公民館長を通じて、担当課に話してもらっているが、市道東宮線に待避所を設けてほしい。場所が決まれば、地権者に承諾をもらいに行きたい。 また、土砂（崩落）で危険な箇所があるので、ストーンガード設置をお願いしたい。</p>	<p>待避所やストーンガードをどこに設置してほしいか、道路を利用する方の意見を伺い、用地の状況も確認しながら対応したい。</p>
<p>市からお詫びの連絡があったが、台風明けに住民が倒木の撤去などを行っている最中に市職員がパトロールに来ていたにも関わらず、特に声をかけることもなくそのまま帰っていった。</p>	<p>職員のそのような対応は、申し訳なく思う。市民の皆様をお客様として、気持ち良い対応ができるよう努めていく。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
その他：ごみ有料化	
<p>来年から始まるごみの有料化について、導入に至った経緯など、説明いただきたい。</p>	<p>ごみ処理事業にかかる歳入総額は約7,500万円、歳出総額は11億1,800万円である。道前クリーンセンターの基幹改良工事には約60億円の費用を要する。</p> <p>一方で、西条市は県内でもリサイクル率が低く、1人1日あたりのごみ排出量が多い。有料化によって、ごみの減量と資源化の推進、排出量に応じた負担の公平性、ごみ処理費用の削減を図る。そして、ごみを減量することで処理施設への負荷を軽くしたい。</p> <p>現在、アプリでも分別方法の検索ができるが、有料化開始前には、各世帯に分別ガイドブックを戸別配布する予定。</p>
<p>【まとめ】</p> <p><市長> いかに地域に住み続けられるかは、行政任せでは前に進まず、主役は市民の皆様だと思う。ふるさとを思う出身者のコミュニティ、また外から来た人を受け入れる雰囲気が良い。安心して暮らせる地域にするために一緒に取り組んでいただきたい。</p>	

<当日の様子>

